

CASBEE®-建築(新築)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	中央日土地博多駅前ビル	階数	地上13階、地下2階
建設地	福岡県福岡市博多区博多駅前三丁目4-1	構造	S造
用途地域	商業地域	平均居住人員	2,000 人
地域区分	7地域	年間使用時間	3,120 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2025年6月 竣工	評価の実施日	2025/8/28
敷地面積	1,388 m ²	作成者	株式会社竹中工務店
建築面積	1,053 m ²	確認日	2025/8/28
延床面積	13,041 m ²	確認者	株式会社竹中工務店 須賀 定邦

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)									
<p>BEE = 3.0 ★★★★☆</p> <table border="1"> <tr> <td>S: ★★★★★ A: ★★★★☆ B+: ★★★★ B-: ★★☆ C: ☆</td> </tr> <tr> <td>3.0 1.5 BEE=1.0</td> </tr> <tr> <td>100 50 0 0 50 100</td> </tr> <tr> <td>G(L) 50 0 0 50 100</td> </tr> <tr> <td>0 50 100 環境負荷 L</td> </tr> </table>	S: ★★★★★ A: ★★★★☆ B+: ★★★★ B-: ★★☆ C: ☆	3.0 1.5 BEE=1.0	100 50 0 0 50 100	G(L) 50 0 0 50 100	0 50 100 環境負荷 L	<p>標準計算</p> <table border="1"> <tr> <td>①参照値 100%</td> </tr> <tr> <td>②建築物の取組み 71%</td> </tr> <tr> <td>③上記+②以外の 71%</td> </tr> <tr> <td>④上記+ 71%</td> </tr> </table> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したもので</p>	①参照値 100%	②建築物の取組み 71%	③上記+②以外の 71%	④上記+ 71%	<p>Q2 サービス性能: 5 Q3 室外環境(敷地内): 4 Q1 室内環境: 3 LR1 エネルギー: 4 LR3 敷地外環境: 3 Q3 室外環境(敷地内): 3.8 Q2 サービス性能: 4.0 Q1 室内環境: 3.6 LR2 資源・マテリアル: 4.0 LR3 敷地外環境: 4.0 LR1 エネルギー: 4.4 LR2 資源・マテリアル: 4.0 LR3 敷地外環境: 3.6 Q3 室外環境(敷地内): 3.8 Q2 サービス性能: 4.0 Q1 室内環境: 3.6 LR1 エネルギー: 4.4 LR2 資源・マテリアル: 4.0 LR3 敷地外環境: 4.0 LR1 エネルギー: 4.4 LR2 資源・マテリアル: 4.0 LR3 敷地外環境: 3.6</p>
S: ★★★★★ A: ★★★★☆ B+: ★★★★ B-: ★★☆ C: ☆											
3.0 1.5 BEE=1.0											
100 50 0 0 50 100											
G(L) 50 0 0 50 100											
0 50 100 環境負荷 L											
①参照値 100%											
②建築物の取組み 71%											
③上記+②以外の 71%											
④上記+ 71%											

2-4 中項目の評価(バーチャート)
Q 環境品質
Q1 室内環境
Q1のスコア = 3.6
音環境 3.8 温熱環境 3.3 光・視環境 3.8 空気質環境 3.9
Q2 サービス性能
Q2のスコア = 4.0
機能性 3.8 耐用性 4.1 対応性 4.1
Q3 室外環境(敷地内)
Q3のスコア = 3.8
生物環境 4.0 まちなみ 4.0 地域性 3.5
LR 環境負荷低減性
LR1 エネルギー
LR1のスコア = 4.4
建物外皮の 4.6 自然エネ 3.0 設備シス 5.0 効率的 3.5
LR2 資源・マテリアル
LR2のスコア = 4.0
水資源 3.5 非再生材料の 4.1 汚染物質 4.3
LR3 敷地外環境
LR3のスコア = 3.6
地球温暖化 4.1 地域環境 3.5 周辺環境 3.2

3 設計上の配慮事項	その他
総合	
執務者が快適に過ごせるよう音や空気室環境等に配慮した計画とともに、既存躯体やリサイクル材の利用により資源の有効利用を図っている	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能
・開口部は遮音性能に優れた開口部を採用 ・事務室内は換気量30CMH/人を確保	・幹線設備をバスダクトによる計画とし、テナントが容易に電力増強対応が可能 ・システム天井の採用によるメンテナンスの容易性 ・将来的な増設が可能となるスペースの確保
Q3 室外環境(敷地内)	Q3 室外環境(敷地内)
Q1 室内環境	Q2 サービス性能
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル
LR3 敷地外環境	LR3 敷地外環境

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフケイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される